

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間: 2009年10月下旬から12月上旬までの旬別
 対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業: さんま棒受網漁業
 対象魚群: 南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量: 来遊量は減少し、10月下旬には来遊が断続的となり、終漁となる。

(2) 漁場: 10月下旬は、襟裳岬沖に散発的に漁場が形成される。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: 10月下旬～11月中旬は中位水準で推移する。11月中旬以降ゆるやかに減少し、11月下旬～12月上旬は低位水準となる。

(2) 漁場: 10月下旬～11月中旬は久慈～金華山沖にかけての広範囲に漁場が形成される。11月下旬には久慈沖の漁場が消滅する。12月上旬は宮古沖の漁場が消滅し、三陸南部に漁場が残る。

3) 常磐海域

(1) 来遊量: 来遊量は徐々に増加し、10月下旬～11月上旬は中位水準、11月中旬は高位水準となる。11月下旬以降は減少し、11月下旬～12月上旬は中位水準となる。

(2) 漁場: 10月下旬～12月上旬にかけて、常磐北部～南部にかけての広範囲に漁場が形成される。

2. 予測の概要

海 域		10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬
道東海域	来遊量	— →				
	動向	断続的				
	漁 場	襟裳岬沖				
三陸海域	来遊量	→	→	→	→	→
	動向	中位水準	中位水準	中位減少	低位減少	低位減少
	漁 場	久慈～ 金華山沖	久慈～ 金華山沖	久慈～ 金華山沖	宮古～ 金華山沖	釜石～ 金華山沖
常磐海域	来遊量	→	→	→	→	→
	動向	中位増加	中位増加	高位増加	中位減少	中位減少
	漁 場	北部～南部	北部～南部	北部～南部	北部～南部	北部～南部

3. 漁況の経過概要

(10月上旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、9月下旬を上回り、前年並みの高位水準となった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期前半に来遊量は多かったが、その後徐々に減少した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石～厚岸沖と襟裳岬沖であった。

落石南東～南沖の 70～85 海里付近(表面水温 12～17℃)。1 日夜と、4～7 日夜に大型船数隻～20 隻程度と小型船多数操業。大型船は 1 晩で 50～100トン以上漁獲。小型船は満船となる船が多かった。

落石南 40 海里～厚岸大黒島南南東 30 海里付近(表面水温 13～16℃)。1～3 日夜と、6 日夜に大型船数隻～15 隻程度と小型船多数操業。大型船は 1 晩で 35～80トン程度漁獲。小型船は満船となる船も多かった。

襟裳岬南東～東南東沖の 50～100 海里付近(表面水温 13～18℃)。1～6 日夜のほぼ毎日と 10 日夜に大型船が数隻～50 隻程度操業。数トン～80トン程度漁獲。

(3) 魚体

26～27cm モードの中型魚と 30～31cm モードの大型魚主体。中型以下の魚の混じり具合は、3～7 割程度。大型魚は体重 150～160g 台が多く、中型魚は体重 90～100g 台が多い。

1) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、9月下旬を上回ったが、前年を下回り、低位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期半ばから来遊量は徐々に増加した。

(2) 漁場

三陸海域の主漁場は、黒埼沖であった。

黒埼東北東～東南東の 55～100 海里付近(表面水温 13～17℃)。4 日以降、時化で操業できない日を除いて大型船が数隻～20 隻程度操業。1 晩で数トン～50トン程度漁獲。

(3) 魚体

31cm モードの大型魚主体。中型以下の魚の混じり具合は、2 割程度。大型魚は体重 160～170g 台多い。